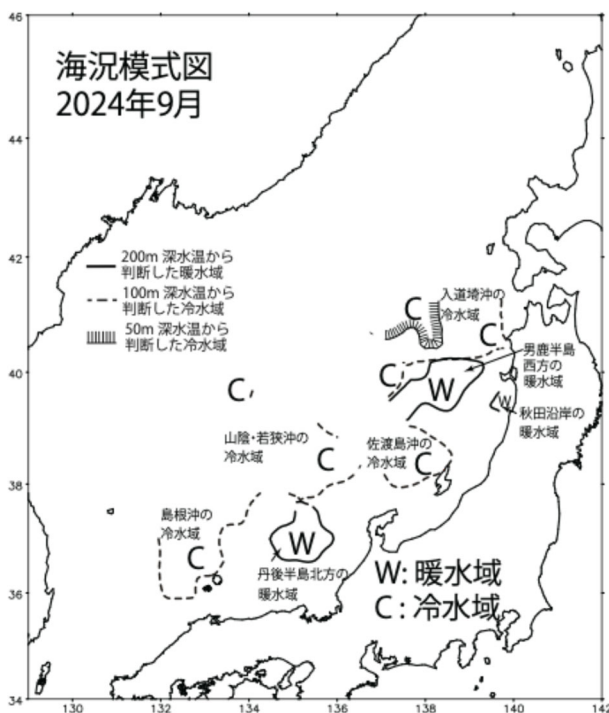




## 2024年度 第3回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2024年10月中旬~12月)のポイント



- 丹後半島北方の暖水域は北方に移動し、大和堆周辺に分布する。男鹿半島西方の暖水域は西方に移動し、能登半島北方に分布する。秋田沿岸の暖水域は弱体化し、消滅する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さく沿岸距離は平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや接岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや小さく沿岸距離は平年並みで経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- 対馬暖流域の水深 50 m 水温は、日本海西部で“平年並み”、北部は“やや高め”で経過する。

(註)用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回

“やや”：出現確率約3年に1回、“平年並み”：出現確率約2年に1回

### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部(新潟) 渡邊、和川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

## 2024年度 第3回 日本海海況予報

### 1. 今後の見通し（2024年10月中旬～12月）

- (1) 丹後半島北方の暖水域は北方に移動し、大和堆周辺に分布する。男鹿半島西方の暖水域は西方に移動し、能登半島北方に分布する。秋田沿岸の暖水域は弱体化し、消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さく接岸距離は平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや接岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“平年並み”、北部は“やや高め”で経過する。

### 2. 経過（(1)は2024年6月～9月、(2)～(3)は2024年6月～8月、(4)は2024年6月）

- (1) 6月に隠岐島北東に見られた暖水域は北東へ移動し、9月に丹後半島北方に分布。6月に隠岐島はるか北方で出現した暖水域は7月に消滅。6月に能登半島北方に見られた暖水域は8月に消滅。6月に上越沿岸に見られた暖水域は北東へ移動し、8月に消滅。6月に新潟～秋田沿岸に見られた暖水域は8月に消滅。8月に青森西方に出現した暖水域は9月に消滅。9月に男鹿半島西方と秋田沿岸に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月ははなはだ小さくはなはだ離岸、7月はかなり小さく接岸距離は平年並み、8月はやや小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月はやや小さくかなり離岸、7月はやや小さく接岸距離は平年並み、8月はかなり小さくはなはだ離岸。佐渡島沖の冷水域は、6月はやや小さくはなはだ離岸、7月はやや小さくかなり離岸、8月はかなり小さくやや離岸、入道埼沖の冷水域は、6月はやや小さくやや接岸、7月はかなり小さくはなはだ離岸、8月はやや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は、富山湾沿岸～北西で“やや低め”、能登半島北西、佐渡島沿岸～北西、北海道沿岸～西方で“やや高め”～“かなり高め”、それ以外は“平年並み”。7月は、調査範囲が限られているものの、概ね“平年並み”～“やや高め”。8月も調査範囲が限られているが、若狭湾沿岸～北方で“やや低め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“かなり高め”、北部は“やや高め”。

### 3. 現況（2024年9月）

- (1) 暖水域は、丹後半島北方、男鹿半島西方、秋田沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域と山陰・若狭沖の冷水域はともに、かなり小さく接岸距離は平年並み。佐渡沖の冷水域は、規模・接岸距離ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。
- (3) 大和堆周辺、佐渡島北西～はるか北西で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“平年並み”、北部は“やや高め”。

(註) この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMS IIシステムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（10月～12月）も参考にした。

引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め（低め）” : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）

“かなり高め（低め）” : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）

“やや高め（低め）” : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）

“平年並み” : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関)
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所